

OB通信

# 鳳 翮

復刊第15号

=2014年12月=

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翮会

## 目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富 敏夫	1
1 本部・支部連絡先		2
2 会長及び事務局からOBの皆さまへ		3
3 OB会（鳳翔会）総会		
（1）平成26年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告		5
（2）収支計算書及び貸借対照表		7
（3）平成26年OB総会を終えて	東京支部 秋山 高弘	9
4 各支部活動状況（平成26年8月～11月）		
（1）東京支部 秋山 高弘		11
（2）関西支部 池田 純		11
（3）山口支部 池富士 清		11
（4）九州支部 武富 敏夫		12
5 会員近況		
（1）一泊二日の箱根旅行	山口支部 藤井 数男	13
（2）近況報告	九州支部 北原 直子	14
6 北から南から		
（1）南アルプス・白峰三山縦走の記	東京支部 恵谷 浩	15
（2）4年振りの白馬岳と40年振りの槍ヶ岳	関西支部 上田 功	17
（3）「ルートル会」親睦登山	東京支部 三浦 静止	18
7 同期会だより		
（1）同期会登山 続報 平成26年夏	関西支部 尾儀 一郎	20
（2）昭和50年51年工学部OB同期会の報告	関西支部 池田 純	22
8 ワンゲル今昔		
（1）現役当時の装備の思い出	広島県 堀江 淳一	24
9 現役活動報告		
（1）夏合宿結果報告		26
（2）第51回中国・四国合同ワンデリングについての報告		27
（3）春合宿案報告		28
10 編集後記		29

## はじめに

鳳翔会会長 武富 敏夫

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送が終了しようとしています。福岡では、織田信長や豊臣秀吉を裏で支えた黒田官兵衛を盛り上げる、さまざまなイベントや企画が実施されました。「博多どんたく港まつり」では、NHK大河ドラマをテーマに、黒田官兵衛ゆかりの全国5都市がどんたく隊を結成したり、また、地域の歴史を知ってもらうため、福岡藩祖の黒田官兵衛ゆかりの地をベテランガイドと巡る企画も実施されました。

更に福岡県では、県内各地にある史跡・資料を全国に発信し、多くの観光客の方に黒田官兵衛ゆかりの地・福岡を訪れ、史跡めぐりを楽しんでいただけるよう取り組み、福岡県議会も応援したとのことです。福岡市議会でも「平成26年の大河ドラマ放映を観光・集客につなげるため、福岡城跡や鴻臚館跡の整備を推進すべき。福岡城跡の整備実現に向け基金を設置するとともに、市全体での推進体制の強化が必要であり、決意を問う。」との一般質問まで行われています。8月には九州経済調査会が福岡県にもたらす経済効果は、約170億円になるとの推計を発表し、まさに今年の福岡県は黒田官兵衛一色の感がありました。

平成27年のNHK大河ドラマが、吉田松陰先生(山口県ではあえて先生とつける)の妹・文の生涯を描き、山口県の萩が主要な舞台となる「花燃ゆ」に決定し、9月30日から10月2日にかけて、萩市では2回目となるロケも行われました。OBの皆さまは学生時代に山口で過ごされていますので、今からどのようなドラマになるのか期待されている方も多いのではないのでしょうか。福岡県同様に萩市では「花燃ゆ」プロジェクトが設立され、放送に合わせ、萩市の幕末・維新ゆかりの地など魅力ある観光資源を情報発信し、観光振興や地域経済の活性化を図ることになっています。この一つの取り組みとして大河ドラマ館が平成27年1月11日に開館します。

さて、今年のOB総会は、東京支部引受で11月22日(土)～23日(日) オークラフロンティアホテル海老名において、44名のOB会員の皆さまと2名の現役生の参加で、盛会におこなうことができました。OB総会開催のため準備から企画・運営にあたられた、東京支部の皆さまに改めてお礼を申し上げます。ご都合により出席できなかった会員の皆さまには、5ページから総会の議事内容を報告していますのでご一読ください。

今年は10月に台風18号、19号が連続して上陸し猛威を振るいました。2月の豪雪や8月の広島などの集中豪雨、更には9月の御嶽山の火山噴火など、自然災害の当たり年ともいわれています。御嶽山の噴火では死者57人、行方不明者6人の多くの犠牲者を出しました。「美しき日本の山々」のテレビ放映などの影響で登山ブームが再来し、最近では3,000m級の山でも比較的容易に登れるところが増えてきています。北アルプスなどの山々に登っておられる方もいらっしゃると思いますが、登山計画書を自宅においていくとか、登山届の提出を必ず行い、自分の行動が他の人にもわかるようにしておくことが必要だと思います。私は公民館の低山登山サークルに所属していますが、山岳保険の加入義務があり、「日本山岳協会山岳共済会」のハイキングコースの山岳保険に加入しています。万一の遭難事故などに備え、できれば山岳保険に加入することも必要でしょう。

今年も残りわずかとなりました。1年の経つのが非常に早いと感じています。来年が良い年でありますよう、皆さまのご健康とご多幸を祈念します。

## 1 本部・支部連絡先

### (本部)

OB会会長

武富 敏夫

(経済・45卒)

OB会副会長

池富士 清

(農・47卒)

OB会事務局長

【平成26年12月まで】

栗林 道

【平成27年 1月以降】

小林 遼大

### (東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経済・49卒)

副支部長 高田 哲生 (工・49卒)

事務局長 秋山 高弘 (経済・53卒)

### (関西支部)

支部長 池田 純 (工・51卒)

### (山口支部)

支部長 池富士 清 (農・47卒)

本部OB会副会長と同じ

### (九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経済・39卒)

支部長 武富 敏夫 (経済・45卒)

本部OB会会長と同じ

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

## 2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

### (1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。ただし、当分の間はOB通信を発送します。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先（平成27年1月以降）】

会長 武富 敏夫

事務局長 小林 遼大

会費有効年に応じて、鳳翽会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書(以前送付済)、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納付くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2012年までに会員資格を喪失された皆さま  
鳳翽会新規(再)加入のご案内、入会申込書(以前送付済)、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

#### 【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内  
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2013年及び2014年の皆さま

会費納入について(お願い)、お知らせ、郵便局払込取扱票

#### 【納付先】

口座記号番号 01530-0-16050  
加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部  
個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納付することもできます。一括納付の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いします。

新規または再度会費を納付される場合は、会費の有効年は納付年からとして取り扱わせていただきます。

### (2) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通

信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

また、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せください。

8月発行分	7月中旬
12月発行分	11月中旬

(4) 落丁のお詫び

8月発行のOB通信の一部に落丁があるとの連絡をいただきました。皆様にはご迷惑をお掛けしたことを、紙面をお借りしてお詫びいたします。

### 3. OB会（鳳翔会）総会

#### (1) 平成26年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告

平成26年のYUWV OB会（鳳翔会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

- 1 日時 平成26年11月22日(土) 17:00~17:40
- 2 場所 オークラフロンティアホテル海老名
- 3 参加人員 会員44名 現役2名

#### 4 議事

開会あいさつの後、議事に先立ち物故者に対して黙とうをおこなった。

総会出席者の承認を得て、東京支部城戸賢嗣氏が議長に選任された。議長より決議事項の第一号議案から第四号議案まで、一括して承認を求めたいとの提案があり、全員異議なく承諾した。

##### 1) 決議事項

#### 【第一号議案 平成25年会計決算報告承認及び監査報告の件】

会長より、「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」に基づき、平成25年1月1日から12月31日までの収支状況並びに平成25年12月31日現在の財産状況の報告がおこなわれた。

次に、監査2名が本総会に欠席のため、議長の承諾を得て監査の代理として武富敏夫氏より、1月29日会計帳簿等の監査をおこない、平成25年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であると報告がおこなわれた。

平成25年会計決算報告承認及び監査報告に関して、質疑応答はなかった。

#### 【第二号議案 平成26年事業報告承認の件】

会長より、OB会則第三章の規定に基づき、1月から11月までの事業結果及び今後の事業予定の報告がおこなわれた。

平成26年事業報告承認に関して、質疑応答はなかった。

なお、事業結果及び事業予定は次のとおりである。

- 1) OB総会の開催 11月22日~23日
- 2) 第一回OB通信の発行 8月9日(発送部数331組)
- 3) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等  
追いコン出席、新入生勧誘及び海浜合宿支援
- 4) OB会運営体制の整備  
同期世話人との連携強化及び就任要請、OBの住所情報提供要請(6月18日)
- 5) 第二回OB通信の発行及び会員名簿の作成 12月中旬発送予定

【第三号議案 会則変更承認の件】

会長より、郵貯銀行の代表者変更手続きには、OB会の会則の添付が必要で、会則には事務局の所在地を明記しておかなければならず、このため会則第一章二に「(所在地：山口県山口市吉田 1677-1 山口大学体育会内)」を追加する旨の説明があった。

会則変更承認に関して、質疑応答はなかった。

【第四号議案 平成27年総会開催地承認の件】

会長より、平成27年の総会開催地を「山口支部」で実施する旨提案があった。平成27年総会開催地承認に関して、質疑応答はなかった。

なお、議案の終了後、山口支部長池富士清氏より開催するにあたっての挨拶がおこなわれた。

議長より、第一号議案から第四号議案まで、一括して承認を求め議場に諮ったところ、全員異議なく賛成し承認した。

2) 報告事項

1) 平成26年度現役活動報告について

事務局長栗林道君の挨拶の後、小林遼大君より海浜合宿、夏合宿、中四合ワン等の特記事項について簡単に報告があった。



## (2) 収支計算書及び貸借対照表

収支計算書(平成25年1月1日~12月31日)

(単位：円)

収入の部		
	平成25年入金会費	85,000
	平成25年預り金振替	310,000
	寄付金	1,000
	その他	3,025
	収入の部合計	399,025
支出の部		
	平成24年OB通信12月号関連	480
	平成25年OB通信8月号関連	66,316
	平成25年OB通信12月号関連	47,931
	OB総会関連	136,700
	ホームページ運営費	5,000
	新入生勧誘助成費	50,000
	海浜合宿助成費	20,000
	会長旅費	52,101
	事務局費	10,000
	その他経費	20,307
	支出の部合計	408,835
収支		
	平成25年収支	▲ 9,810
剰余金		
	前年繰り越し	548,203
	翌年繰り越し	538,393

注)

収入の部	①寄付金	木村均氏より	1,000円
	②その他収入	同期OB通信費(稲葉真一氏より)	3,000円
		切手売却代	25円
		(合計)	3,025円
	③特記事項	次の非会員の方から寄付やOB通信費を納入していただいておりますが、みなし会費として処理し、平成26年以降は貸借対照表の「会費預り金」に計上しています。	
		河内 建 氏より	2,000円
		中村節彦 氏より	2,000円
		原田啓二 氏より	10,000円
		井上美智夫氏より	10,000円
		(合計)	24,000円

- 支出の部 ①新入生勧誘助成費及び海浜合宿助成費は、いずれも新入部員獲得等の費用として鳳  
 翔会から助成しているものです。  
 ②事務局費は事務局業務のご苦勞に対して支払いしているものです。

貸借対照表(平成 25 年 12 月 31 日現在)

(単位：円)

	科 目	期首残高	当 年		期末残高
			増加	減少	
資 産 の 部	現金	0	411,205	373,205	38,000
	預金				
	広島貯金事務C	1,668,203	427,000	408,180	1,687,023
	預金計	1,668,203	427,000	408,180	1,687,023
資産合計		1,668,203	838,205	781,385	1,725,023
負 債 の 部	未払費用	0	408,835	373,205	35,630
	会費預り金				
	平成25年	310,000	85,000	395,000	0
	平成26年	248,000	105,000	0	353,000
	平成27年	193,000	67,000	0	260,000
	平成28年	149,000	62,000	0	211,000
	平成29年	74,000	53,000	0	127,000
	平成30年	44,000	30,000	0	74,000
	平成31年	33,000	6,000	0	39,000
	平成32年	22,000	4,000	0	26,000
	平成33年	13,000	4,000	0	17,000
	平成34年	8,000	4,000	0	12,000
	平成35年	6,000	2,000	0	8,000
	平成36年以降	20,000	4,000	0	24,000
会費預り金計	1,120,000	426,000	395,000	1,151,000	
負債合計		1,120,000	834,835	768,205	1,186,630
剰余金	剰余金	548,203	0	9,810	538,393
負債及び剰余金合計		1,668,203	834,835	778,015	1,725,023

注) ①未払費用の内訳

OB 総会講師謝礼	30,420 円
HP 運営管理費	5,210 円
(合計)	35,630 円

②会費預り金の平成 26 年から平成 29 年の残高には、非会員の方から寄付をいただいたみなし会費分が、各年 4,000 円、合計 16,000 円入っています。

### 3) 平成26年OB総会を終えて

東京支部 事務局長 秋山 高弘

昨年9月の東京支部懇親会で、次回OB総会の引き受けを決めると共に、恒例の秋の登山を少し早い下見を兼ねて大山にしようと決めた。

今思えばこのとき下見をしていたことが、その後の準備においてとても役に立った。

どうせ行くことになるのだからと大山に登ることとし、皆の都合から11月23日(土)にしたのだが、紅葉シーズン真っ盛りのちょうど総会の日前後の大山の状況を知ったことで、総会の計画がとても立てやすくなった。

まずは、伊勢原駅に着いてびっくり仰天、想像以上のバス待ちの長蛇の列だった。だが、臨時バスのおかげで思ったより早く登山口に着くことや、ケーブルカーは混雑のため使わない方が良く、そうすると山頂まで登るには体力や時間を考えてやめた方がいいだろうこと、阿夫利神社まで登るだけでも素晴らしい景色を眺めることができることなど、多くの情報を集めることができた。

また、大山近辺に旅館やホテルがないため、早めに宿泊・懇親会場を決める必要があると考え、結婚式シーズンで予約が取れない中、唯一空いていた11月22・23日でオークラフロンティアホテル海老名を2月上旬には確保することができた。これも出遅れていたら、おそらくは予約が取れずあわてただろう。

これでほぼほぼOB総会の骨格は固まったわけで、とても気持ちが楽になったように思う。実際総会の具体的準備を始め、スタッフを固めたのは10月に入ってから、皆さんの出欠連絡がほぼまとまったあたりで、詳細打ち合わせは11月の本番の前週末といった具合だった。こんなのにのんびりやれたのも、前年大山登山に参加したメンバーが15名もいて、皆が大山を知ってくれているという安心感からだったろう。

また支部の皆さんからも、スタッフとしてなんでもやるよとの申し出が多くあり、当日の担当を割り振るのも楽だった。

こうして天気にも恵まれて迎えた総会本番、状況は参加された皆さんが一番ご存じのはず、いかがだったでしょうか？(総会の状況は以下に記載)

直前に行った詳細打ち合わせの後の決起集会(要は宴会)では、早くも4年後どこでやるかで盛り上がった。多分、オリンピックを真近かに控えた活気あふれる東京を皆さんにお見せできるかのではないのでしょうか。

11月22日(土)

- 11:00 伊勢原駅にAプラン参加者集合 20名  
(全員時間厳守で集合、並びことなくバスに乗り込み出発。)
- 13:00 阿夫利神社着、昼食休憩  
(途中 紅葉のトンネルを鑑賞、神社では絶景を楽しむ)
- 15:00 ホテルにて受付開始
- 16:00 Aプラン参加組 ホテル到着

- 17:00 総会開始 終了後集合写真撮影  
 18:00 懇親会開始 司会 村上和史  
 乾杯 音頭 堺原先輩  
 東京支部 城戸支部長歓迎挨拶  
 (美味しい料理とお酒に舌鼓 皆との話も弾む)  
 各支部より活動状況報告  
 (九州 武富支部長 山口 池富士支部長 関西 秋山泰寛 東京 秋山高弘)  
 上田先輩歌唱指導  
 (ワンダーフォーゲルの歌、あざみの歌、一日の終わり、旅鳥)  
 武富会長挨拶  
 万歳三唱  
 20:00 お開き  
 各自二次会へ(カラオケ組、近隣居酒屋組、部屋飲み組などなど)  
 24:00 頃 たぶん就寝

11月23日(日)

- 7:00 朝食(1Fラウンジ)  
 8:00 大山山頂弾丸ツアー組出発 4名  
 8:30 Bプラン組出発 8名  
 10:00 ホテルチェックアウト 解散

総会参加者全員で記念写真を一枚



(2014.11.22 撮影: 47卒 三浦)

## 4 各支部活動状況（平成26年8月～11月）

### （1）東京支部

事務局長 秋山 高弘

東京支部では、年間に 懇親会2回（新年会、暑気払い）、近郊の山登り2回（春・秋）を、基本的な活動としています。

平成26年は総会開催を支部で引き受けましたので、秋の山登りはできませんでしたが、早めに準備していたこともあり、その他の活動は例年通り実施することが出来ました。

活動実績並びに今後の予定は以下の通りです。

2月1日（土） 新年会 参加21名

福の花 日本橋店（山口の食材の店）

二時間半飲み放題コース（ぶちうまコース）

30分延長し、いっぱい飲んだり話したり出来ました。

5月17日（土） 高川山（976m）登山 参加16名

高川山は山梨県大月市にある山で、富士山がとてもよく見えます。

当日は好天に恵まれ、目の前の富士山、遠くに南アルプス間ノ岳を望むことが

出来ました。また、山の真下をリニアモーターカーの実験線が通っており、試験走行の様子を見ることも出来ました。

9月27日（土） 秋の懇親会 参加者24名

新宿三井クラブ

新宿高層ビル群の一角にある、夜景のとてもきれいな会場でした。

初めてあるいは久しぶりの参加者が3名いらっしゃって自己紹介をいただきました。仲間が増えていくのはうれしいことです。

11月15日（土） OB総会直前打ち合わせ会兼総決起集会 参加者10名

新橋 ハロー会議室→松竹梅

会議室を借りて、当日の動きを皆で確認。その後場所を移動して決起集会。

（要は宴会）次回はどこでやるかなどいつも通り大いに盛り上がる。

11月22・23日（土・日） OB総会 参加者46名

神奈川県伊勢原市大山 宿泊・懇親会 オークラフロンティアホテル海老名

次回 来年1～2月 新年会（予定）

### （2）関西支部

支部長 池田 純

下期は支部としては、大きな活動はしておりません。

10月18、19日 昭和50、51年工学部卒部同期会があったので支部より、古賀、池田が加。報告は別途 来年1月末、または2月に新年会を兼ね支部幹事会を開催予定。

### （3）山口支部

支部長 池富士 清

山口支部の活動は、里山トレッキングを含めた年数回の集まりを持つことを目標としています

また、大学のお膝元でもあり、現役クラブ員との交流も活動のねらいにしています  
今年後半は、これまで2回の交流会を、やっと実施することが出来ました

- ・現役海浜合宿激励 8月17日 萩市菊が浜 5名参加
- ・支部交流会 11月15日 山口市小郡「呑ん太」 14名参加

来年は、総会引き受けということで、準備に万全を期すため、交流会等の年間計画を会員に伝えるとともに、担当を明確にして、集中して取り組むことを、11月の交流会で確認したところです。どうか、来年の総会への多数の参加を、お願いします

#### (4) 九州支部

支部長 武富 敏夫

8月以降、日帰り山行を中心に会員相互の親睦をはかっています。

◎ H26.09.20 日帰り山行 発心山 雨天中止

◎ H26.10.25 日帰り山行 英彦山・紅葉観賞 参加人員 6名

・(コースタイム)

別所駐車場 9:25 → 奉幣殿 9:45 → 玉屋神社分岐 10:15 → 鬼杉分岐 11:10  
→ 南岳 12:20 12:40 → 中岳 13:10 → 奉幣殿 14:30 → 別所駐車場 14:45

・(概況)

晴れ男と自称される秋山先輩の参加で、絶好の登山日和となった。別所駐車場で、久留米と北九州からの参加者と合流し、近くの交番で登山届を提出する。奉幣殿までの連続する急な石段は、山行開始の足慣らしとなった。

鬼杉分岐から南岳までは標高差約300mの登りである。端正な「柱状節理」の材木石で休憩し、途中まだ早い紅葉と山々の眺望を楽しみながら、高度を稼いでいく。連続する鎖場を一気に登って南岳頂上に飛び出した。皆さん口をそろえ、「こちらを下山コースにしない方が良かった」と。

昼食後中岳へ。右手に見えるのは由布岳であろうか。かすんでいてあまり良くわからない。冬場にきたときは雲仙方面も見えたはずだ。中岳を後にして一気に奉幣殿へと下る。

35km 耐久徒歩を奉幣殿にゴールにしている中学生と出くわすが、引率の先生は疲労困憊でかわいそうな位だ。80km 耐久徒歩を思い出す。我々は「英彦山ホテル和」で登山後の汗を流し、本日の日帰り山行は無事終了した。

◎ H26.11.15 日帰り山行 蛤岳・山茶花観賞 参加人員 4名

・(コースタイム)

坂本峠 10:52 → 106ポスト 12:13 → 蛤岳 12:40 13:10 → 犬井谷分岐  
13:30 → 土木碑 13:55 14:00 → 源流分岐 14:08 14:15 → 坂本峠 15:16

・(概況)

坂本峠で他の2人を待っているがなかなか来ない。携帯電話の着信音が鳴るが、電波の届かない場所であり、携帯がつながる場所まで降り、吉野ヶ里公園駅まで迎えに行く。

事前の連絡が不十分で、出発時間が約1時間10分も遅くなり反省。蛤岳の中腹にある「蛤水道」は慶長年間(1600年ころ)佐賀藩の重臣、治水の神様と言われた「成富兵庫重安」が築造したと伝えられ、人工水路が全長1,260mあり、土木遺産となっている。

出発時間が遅れたが、予定通り源流地域を周回コースに選んだ。都合よく同じ方向に行く方

に案内していただき、道に迷うことなく周回し、静かな山域の源流を楽しむことができた。

下山後は、自生の清楚で真綿色に染まったサザンカを鑑賞し、「山茶花の湯」の大露天風呂を堪能した。

- ◎ H26.12.05 忘年登山及びデーキャンプ 叶岳・今宿野外センター 参加予定者 7名  
叶岳(341m)に登り、周回して今宿野外センターへ向かいます。その後、同センターの炊場で、「堀ちゃん牧場」で購入した糸島牛などでバーベキューを行う予定です。

## 5 会員近況

### (1) 一泊二日の箱根旅行

山口支部 昭和53年卒 工 藤井数男

東京総会に参加する機会を利用して、東京で暮らす娘&孫と一泊二日の箱根旅行に出かけた。孫は2歳8カ月の男の子で、大の鉄道(プラレール)好き、私の知らない列車名をいつもスカイプ(インターネット)で私に教えてくれる。

その孫の願い(娘?)を叶えるべく、箱根旅行を行った次第である。

【旅行工程】は以下の通り

11/20(木) 6:51 徳山出発⇒品川⇒新宿⇒箱根湯本⇒小湧谷(ユネッサン)⇒強羅(泊)

11/21(金) 9:00 強羅出発⇒強羅公園⇒大湧谷  
⇒桃源台⇒芦ノ湖⇒箱根町港⇒箱根湯本  
⇒17:00 新宿着

一日目:雨天、孫たちと新宿小田急改札口で待ち合せ。

12:15 発のロマンスカー展望車に乗って風景を楽しみながら一路箱根湯本へ。湯本から小湧谷のユネッサンで、約2時間近く水着で過ごし、本日の宿泊先強羅パイプのけむりプラスへ到着した。夕食はバイキングでホテル自慢のローストビーフを堪能して、深い眠りに就いた。

二日目:晴天、強羅からケーブルカーで早雲山、ロープウェイに乗って大湧谷へ、大湧谷で名物の温泉卵(黒玉子)を食べて桃源台到着。海賊船で芦ノ湖周遊して箱根町港へ。箱根町からバスで箱根湯本に戻り、往路と逆コースで新宿に戻る。孫は海賊船に乗って大喜び、こちらの顔も思わずほころんだ。大湧谷から見る富士山も、天気が良かったので素晴らしかった。



【感想】 秋の2日間と短い期間であったが、数ヶ月ぶりに、孫との濃密な時間を過ごすことができた。

時期的には丁度紅葉真っ只中で、秋の箱根の紅葉風景は素晴らしかった。メール容量が限られていることから、多くの写真を掲載できないことが残念である。孫に合せた少し盛りだくさんの強行軍?であったのでいささか疲れたが、楽しい一時であった。

また機会があれば、今度は春の箱根を訪ねて見たい。きっと違った箱根の風景を見せてくれるに違いない。

## (2) 近況報告

九州支部 昭和50年卒(教育) 北原 直子



学生時代は不真面目なワングル部員でしたし、日頃のトレーニングにも必死の思いで参加する体力のない部員でした。そして、大学を卒業し、時間的な余裕が出来てからは、時々OB会に参加するようになってきました。今は、九州支部の活動にたまに参加したり、北九州地区で前原さん(同期)が計画する日帰り山行きに参加したり、同期の人達と年に一度の山登りを楽しんだりしています。

早期退職をしてからは、ストレスの少ない、のんびりした生活を健康的に過ごしたいと思っていました。それで週に4日ほど、午前中2時間、集中的に体を動かすことにしています。自宅から歩いて30分で到着する高塔山健康広場に行き、いろいろな健康器具を使ってストレッチを30分しています。伸ばす、ねじる、動かす、負荷をかける事に気を付けながら運動をしていると、知り合いも増え、日頃どんな運動をしているのか話も聞け、刺激も受けます。

高塔山は洞海湾を見下ろす標高192mほどの若松区民の憩いの公園でもあります。桜の季節やあじさい祭りの時には、たくさんの人が訪れます。若松、戸畑を結ぶ若戸大橋(赤い橋でちょっと絵に

なります。)や洞海湾が見渡せる展望台広場や音楽堂、多目的広場、健康広場、それに仏舎利塔もあり、近くの小学校や幼稚園、保育所の遠足の場所ともなっています。

私は健康広場でのストレッチが終わると、多目的広場のグラウンドに移動して周囲を30分ほど走っています。内側のグラウンドではおじさん、おばさん(ほとんどが70代以上の元気な人達)がグラウンドゴルフを楽しんでいます。「今日は寒いよ!」とか「どこの山に登ったん!」などと声を掛けてくる、とてもフレンドリーな方々です。そうこうしていたら、家を出て2時間位たっています。

年々、筋力は落ちてきます。長く元気に過ごす為にも運動をして筋力維持。そして、山行きの声がかかった時に参加できるように体力保持を心がけています。でも一番は、夕食の時に飲むビールの為かもしれません。汗をかいて過ごした日はビールがとてもおいしいです。





## 6 北から南から

### (2) 南アルプス・白峰三山縦走の記

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

今年、山小屋4泊でゆっくり、白峰三山（北岳 3,193m、間ノ岳 3,189m、農鳥岳 3,026m）を縦走・稜線歩きをしました。7月24日に山大文理・物理卒同級生3名がJR身延駅で落ち合い、バスで西山温泉へ行き宿泊。

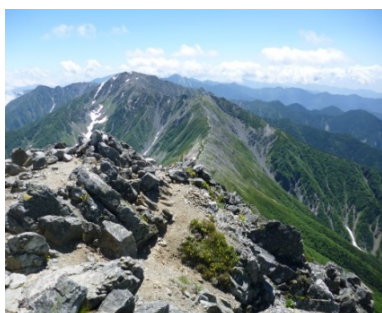
25日（金）：7:00 蓬莱館の車で送ってもらい、奈良田からバスで広河原・標高 1,520m へ。登山届を出し、9:05 いよいよ登山開始。大華沢沿いを上り、途中沢の冷たい水で顔を洗い昼食、雪溪の辺り（写真）から白根御池小屋 2,200m へ、14:40 着・泊。



26日（土）：小屋で朝焼けの北岳方面を望み、朝食、6:10 出発。花咲くクモマナズナ？やキタダケソウ？など高山植物の大群生の中を登り、粘土質の急斜面・通称草スベリを直登中、9:13 初めて富士山を望む（写真）、とともに 9:19 遠くに北アルプス連峰を望み（写真）大感激。



ハイマツ帯の中を小太郎尾根分岐点々に登り、雄大な尾根歩きで北岳肩ノ小屋に 10:25 着、昼食。12:09 目の北岳山頂と西農鳥岳などを望み（写真）、晴天の下 12:25 富士山に次ぐ高峰・百高山第2位の北



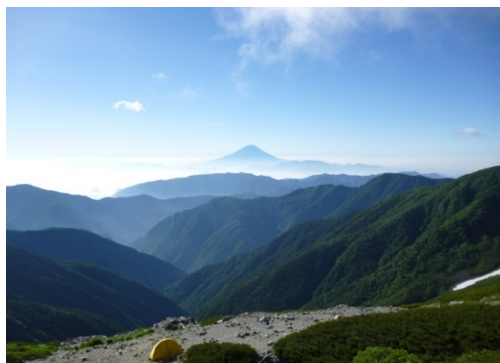
岳山頂に到達（写真）、山頂からは雲海に浮かぶ富士山（写真）や、間ノ岳（写真）、甲斐駒上ヶ岳などを望み、



さらに山頂の岩肌にけなげに咲く高山植物も楽しまれた。15:05 鉄骨2階建て・水洗トイレの北岳山荘 2,930m に着・泊。

27日（日）：朝食、ほとんど撤去されたテント場と薄く朝陽に映える富士山（写真）を望み、8:10 山荘を出発。9:20 中白根山 3,055m に着き、間ノ岳を目の前にした（写真）後、雪溪の前での昼食中か

ら降り出した雨が次第に強風雨となり、12:00 百高山第4位の間ノ岳山頂(写真)では10分の休息で、早々に農鳥小屋を目指す。13:55 農鳥小屋2,800mに到着し



たときは、雨は止んだが一段と強まり吹き飛ばされそうになった強風もかなりおさまり一安心。



16:00頃からは晴れ間も見えるようになり、強風雨がうそのような間ノ岳や明日の農鳥岳方面、うっすらと浮かぶ富士山などの山々を堪能。また、相当に名物らしい山小屋の親爺と3頭の黒色の甲斐犬、空中トイシなどを



体験した。

28日(月):昨日がうそのような快晴のもと、雲海上の朝陽に浮かぶ富士山や、これから登る朝焼けに染まる西農鳥岳などを望み、やはり名物の朝食をし、5:50出発。いきなり岩場のハシゴ・鎖を急登の後、7:33花咲く種々の高山植物もある西農鳥岳山頂3,051mに到達(写真)。さらに稜線を歩き9:10農鳥岳山頂3,026mで三山縦走を完了。下界を目指す途中には、咲き乱れる高山植物と岩ツバメが飛び、数羽のライチョウおまけに三羽の子ライチョウにも遭遇し、写真撮影。10:55大門沢への下降点に、ここには若くして濃霧のため道に迷いビバーク・遭難死した息子の両親が建立した鎮魂の碑があり、鐘が吊るしてあった。道に迷った人を導く鐘かと思い、鳴らしてしばし黙とう。昼食をすませ、いよいよ下山開始。急坂のハイマツ帯の中、沢に出て、15:55縦走最後の山小屋となる大門沢小屋1,800mに。恵谷は寝具付き素泊り(4,500円)。



29日(火):朝食、今日も晴天のよう。6:10出発。沢に下りてくると丸太の橋、あるいは丸太と1本のザイルを手すりにした吊り橋が何カ所かあり。数をかぞえていたが、多数で分からなくなった。膝関節の弱い者にとっては、身震いし呼吸を整えてから渡る。最後に通常の吊り橋と立派な吊り橋を渡り林道へ、10:00大門沢登山道入口着。やっと下界。初夏の陽が照り付ける道をよたよたと歩き、11:00奈良田温泉着。4泊5日の汗を流し、縦走成功を祝してビールで乾杯。バスでの身延駅からそれぞれの帰路へ。

以上、縦走記として簡単にまとめました。写真がカラーでないのが残念。思い起こせば、中学生のとき女教師が鳥取の大山に登り、高い山はこれが最初で最後になるだろうと言い、スライドを見せてくれ、高校生のとき毎年アルプスへ登った教師がスライドを見せてくれたことがいつまでも印象に残っています。そのことが影響して山大ワングル部へ入部、それまでに登ったことのない高山の体験となった1年の夏合宿・白山が私の山登りの原点となっています。卒業後、高い山はほとんど止めていたが、60歳定年退職後に始めた富士山に毎年登り続け、今年はや11回目となりました。

早くも 50 歳のときに現れた膝関節軟骨摩耗と寄る年波のため、いつまで山登りが可能か。数年前からは通常の人々の 2 倍近くの時間をかけているが、今回のように山小屋 4 泊と長いのはもう最後となるでしょう。しかし、これからも体力と気力を維持し、専門誌などへの執筆活動とともに、ゆっくり、亀のように、いやカタツムリのようにも山行を続け、あの感動を得たいものと思う今日この頃です。

## (2) 44 年振りの白馬岳と 40 年振りの槍ヶ岳

関西支部 昭和 48 年卒 経済 上田 功

### 1) 白馬岳

白馬岳へは、故山本充二前会長と 3 年前の 2011 年夏に登る予定でしたが、同年春に同氏を突然襲った病魔と続く長い闘病生活により順延。

「白馬へ登れるように治す。白馬はあきらめちゃんらんよ。」が生前の同氏の口癖でしたが、2012 年 6 月 17 日に 62 才の若さで逝去されたことは残念なことでした。その遺志を継がれた太起子夫人の先導役として小生がお伴することで 2013 年夏での実施を一旦計画しましたが、両者各々の都合により延期。2014 年夏の今年こそはと意気込んで山小屋の予約まで済ませていましたが、直前に夫人の体調面に支障が見つかり、急遽遺灰を送ってもらいそれを胸にして小生のみで出かけた次第です。

行程は台風 11 号の影響で 2 日間順延して 8 月 12 日から 15 日までの 3 泊 4 日で、神戸⇒白馬⇒猿倉⇒白馬尻小屋⇒白馬山荘⇒白馬岳⇒白馬鑓温泉小屋⇒猿倉⇒往路の標準的かつポピュラーなコースでした。

大雪渓を登高するのは実に 44 年振り。大学 2 年の東北夏合宿の帰りに糸魚川から入山した小生らにとって初めての日本アルプス見参以来。木村さん、肥塚さん、仁木さんと小生の 4 名での山行を懐かしく回想しました。今回は白馬岳三角点の側らに山本さんの遺灰を供え缶ビールを一口注いで手を合わせましたが、目頭が熱くなるのを禁じ得ませんでした。

翌日の白馬鑓温泉では、有名なかけ流し混浴露天風呂へ昼前の時間帯でしたので運よく貸し切り状態となり、前日少し残した遺灰を浮かべてゆっくり入浴。山本さんの笑顔を偲んで四肢を思い切り伸ばして温まることができました。



### 2) 槍ヶ岳

2011 年夏に山本さんのご希望通りに白馬岳に登っていたなら、2012 年夏は、2010 年夏の八ヶ岳本沢温泉に続いて、高天原温泉を小生が所望する予定でした。

その高天原温泉に今夏 7 月 22 日から 27 日までの 5 泊 6 日で、神戸⇒高山⇒平湯⇒上高地⇒横尾山荘⇒槍ヶ岳山荘⇒槍ヶ岳⇒三俣山荘⇒高天原山荘⇒太郎平小屋⇒折立⇒富山⇒神戸の比較的長丁場でかつそこそに強硬日程でしたが入浴してきました。

中央西線が不通であった為、飛騨高山経由バスを乗り継いで上高地入り。槍沢遊行と西鎌尾根をコースに加えた為、高天原温泉へ向かうには変則的な入山ルートとなりましたが、槍沢では天候にも恵まれ残雪も多く快適な登高を満喫でき、槍ヶ岳も実に 40 年振り。社会人 2 年目の秋、上高地⇒岳沢⇒穂高連峰⇒槍ヶ岳⇒表銀座逆縦走⇒燕岳⇒中房温泉のコースを中島さんと 2 名で登って以来でした。

翌日の西鎌尾根は前日と似ても似つかぬ強風と降雨の悪コンディション。双六小屋までの間出会ったのは合計で僅か 6 名。途中の視界のきかない雪田上で、は相当に神経を使いました。双六

小屋から三俣山荘までの双六岳と三俣蓮華岳を經由する稜線ルート上も風雨は止まらず視界は10数メートル内外でひたすら慎重に前に進むのみというハードさでした。

そしていよいよ高天原温泉へ。黒部源流からガスの残る雲ノ平に登り、高天原へ。至極当たり前のことですが、「行きたい行こうと思う人が行けない。」とされているそうですが、そんな山深いランプの宿高天原山荘からゆっくりと20分程度歩いて下るローケーションの高天原温泉はね温泉沢の溪流の両岸にそれぞれ泉質の異なる露天風呂があり、右岸の大きめの風呂から左岸の3名規模の小さめの風呂へとタオル一枚で腰を隠して、雪解けの冷たい水が勢いよく流れる沢を行き来・まさに谷渡りする風情はここでしか味わうことが出来ない野趣に富んだ入浴風景と言えましょう。

そんなこんなで、深田100名山の次なる登り方として、7月と8月の夏季に限定して平日の山小屋を利用したの登山を、出来ればコース内に温泉が含まれていることが望ましいのですが、来年以降も古希を迎える頃まで続けたいと思っています。

それ以外の季節には月一度の近郊の山々への日帰り登山で、体力と気力の涵養に努めます。山の神も同意してくれていますがね40数年のサラリーマンライフを比較的大過なく？勤め上げた自分自身へのこれが褒美と思っています。

### (3)「ロートル会」親睦登山

東京支部 昭和47年卒 工 三浦 静止

参加者 堺原(昭和40年卒) 吉永(昭和42年卒) 長野(昭和44年卒)  
守沖夫妻(昭和44年卒) 木村夫妻(昭和46年卒) 三浦(昭和47年卒)  
小田(昭和48年卒)

#### 日程、コースタイム

9月1日 夕刻、菅平高原のペンション「てんとう虫の宿」に集合

9月2日 牧場駐車場 8:10 → 小四阿 9:50 → 四阿山 12:40 → 根子岳 15:00 → 牧場 17:00

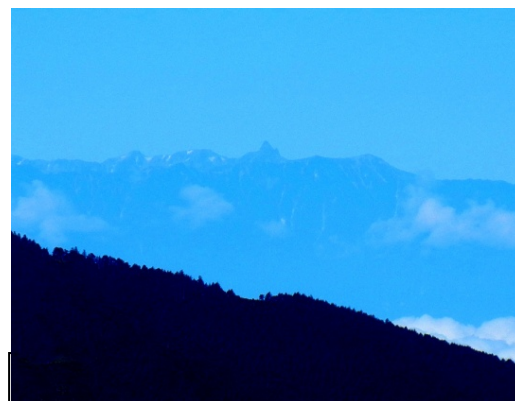
9月3日 ペンションオーナーに、「ダボスの丘」のお花畑を案内してもらい、流れ解散  
木村さんから、リタイア組(ロートル会)の親睦登山に誘われて、たぶん5年目になると思う。  
リタイアしているとは言え、生活のためインドへ出稼ぎに行く身としては、いつも時間が自由という訳ではなく、ずっと仕事とバッティングしていて、参加できなかった。やっと願いがなかった。

ペンションに集合した日は雨。翌日の天気が気になる。仕事の都合ができた吉永さんを除き、夕刻までに全員集合。美味しい夕食に続いて部屋での宴会となり多くの話題を語り合ったが、初参加の私が驚いたのは、先輩方の豪傑ぶりであった。

キリマンジャロ、アコンカグア登山は、今でも大変だと思うが、当時の状況は想像もできない。登山以前に、そこまでの旅行が大変だったと思う。私の「現地は英語が通じましたか?」の質問に「通じただろうが、俺が分からない」の返答に、啞然としてしまった。

さて、翌日の山行の話に入ろう。吉永さんと、別行動の守沖夫妻を除いた6名で出発。車で登山口へと向かう。

四阿山(あずまやさん)は、日本百名山の中では地味な存在だと思うが、その意味が、登山口に



着いた時に理解できた。

目の前に、北アルプスの連山がほとんど端から端まで見渡せる。

この眺望が、その価値だ。山頂からは、冬の晴天時には日本百名山が29見えるそうだ。

当日は前日の雨が嘘のように晴れたが、すぐに雲が上がってきそうな天気だったので、登山口で時間をとって写真撮影。

登り始めは、若い白樺林の中の、ゆっくりとした登り。逆に言えば、なかなか高度が稼げない。

周りには秋の花がたくさん咲いており、ペンションでもらった冊子を見て、その名前を確認しながら歩く。美しい蝶（アサギマダラ）も人なつっこく、良い写真が撮れた。

小四阿を過ぎると勾配が急になり、体調の良くない小生は、だんだん付いて行けなくなる。お年寄りが多いので、まさか足を引っ張ると思っていた小生は、「なにがルート会じゃい」とぶつぶつ言いながら、先輩方に少しでも遅れまいとがんばる。

四阿山頂が目の前だが、根子岳との分岐で昼食。疲れていた小生には、これは助かった。

山頂に着いたときは、予想通り雲が上がっており、遠くの山は見えなくなっていた。ただ、根子岳は、ずっと見えており、ちょっと日本離れした、その山容は美しい。

根子岳への道は一旦300mの下りで、その内の200mは枝につかまりながらの急坂である。登りは低いクマザサの道で気持ちよい。山頂では少し雲が切れ、アルプスの方を見ながら「あれは山か、いや雲では」と、わいわい。

根子岳からの下りは単調な中斜面が淡々と続く。下りには強い小生だが、上りで体力は使い果たしたため、結構つらい下山路である。周りに咲いている花々が、退屈を紛らわしてくれる。

牧場まで降りてみると、すでに5時。「ルート会」らしくない長時間の山行だったが、多分に、写真撮影の時間と、私が登りの時間をくってしまったのが原因と思われる。

ペンションに帰ったら、吉永さんが到着していた。

この日も、美味しい夕食のあと宴会が催されたが、小生は疲れ果ててしまい、参加することができなかった。眠くはなかったが、身体を横にしておかないと辛いので、隣部屋の皆さんの楽しそうな会話を聞きながら、ボーとしていた。情けない話である。



来年はトレーニングを積んでから参加することにする。長野さんの「片足屈伸100回を1日2回」に小生も挑戦しよう。

帰る日は、ペンションのオーナーが「ダボスの丘」を案内してくれた。

夏のお花畑のようにはいかないが、桔梗をはじめ、たくさんの花が初秋の丘を飾っている。

振り返ると、四阿山と根子岳が連なって見え、その間の鞍部の深さを再認識する。確かに300mの高低差があったのだ。これは全高低差の



約半分である。「ダボスの丘」散策は、皆さんの都合で自由に行い、流れ解散となった。小生にとっては、昨日のハードなアルバイトに対する良い整理運動となった。

予想外の好天に恵まれ、美しい花々や蝶の出迎えを受け、関西から来られた先輩方とも交流を深めることができ、小生にとって、素晴らしい山行となった。来年の計画も会津近辺と決まったら、是非、また参加したいと思う。

企画、手配でお世話頂いた木村さん、ありがとうございました。

## 7 同期会だより

### (1) 同期会登山 続報 平成26年夏

関西支部 昭和50年卒 工 尾儀 一郎

早いもので、同期登山を始めて6度目の夏が来た。今年は、7/19~7/22の工程で御嶽山を目指した。参加者は総勢9名で、内訳は、東京2名、九州4名、そして我々大阪3名である。残念ながら常連4名は欠席となった。

折しも、直前の7月9日に台風8号が来襲し、南木曾地区に土石流の災害をもたらした。中央本線は不通となり復旧目処も立たないまま山行きが危ぶまれたが、幸い道路交通は確保されたので、無事計画を遂行できることになった。

初日は宿泊地への移動である。今年はやや近場ではあるが、それでも半日を要する。屋前に大阪（高槻）を出発し、木曾福島を目指す。途中、はからず名古屋駅で九州組と合流でき、1年ぶりの再会を喜び合う。中津川まで電車を利用し、そこから旅館のマイクロバスで棧（カケハシ）温泉宿に向った。その途中土砂降りの雨の中、南木曾駅を通過したが、復旧は手付かず状態で土石流の爪あとが無残であった。何故か私たちの山行きは天候に恵まれない事が多いので先行きが危ぶまれた。旅館では東京組みが出迎えてくれる。全員集合で不安な雰囲気も掻き消え、気分もいっきに盛り上がる。夜はゆったりとした温泉と美味しい食事。これぞわれらが山行きの醍醐味の一つである。幸せな気分一杯に明日からの楽しい山行きを夢見つつ床についた。



九合目 一口水 ガスで何も見えません。でも、ほっと一息。

翌朝、登り始めこそやや曇天であったが、徐々に天気は回復し山上では素晴らしい快晴

となり、360度の眺望を満喫した。事前の触れ込みでは楽なコースのはずであったが、そこはやはり3,000m 超級の山である。顎を出しつつも我慢の登頂となった。

そのご褒美は何にも換えがたい山頂からの絶景であり、皆の笑顔が全てを物語っていた。

好天に加え時間的にも余裕があったので、景色を楽しみながら散策感覚で本日の宿泊地である二の池新館に到着した。運よく一番風呂にありつけ大いに疲れを癒すことができた。

翌日も素晴らしい天気にも恵まれ最高の山

行きとなった。遠く、しかし、間近に見える乗鞍の絶景にしばし見とれ、水を打ったようにどこまでも静かな湖面に映る雪渓を抱いた山容に心穏やかな時を刻み、群生するコマクサに感嘆した。全てが忘れられない貴重な思い出となった。

名残を惜しみつつ下山した先の濁河温泉では、思いがけない感動が待っていた。何と旅館の屋上に天文台が常設されていて、天体ショーを見ることができた。当日は新月後間もないということで月明かりもなく、煌く天の川と夏の大三角形に感嘆し、しばし時を忘れた。来年はどんな感動が待っているか、今から楽しみである。



雲海の向こうに乗鞍  
感動と憩いのひととき



快晴の御嶽山（3,067m）山頂にて  
皆余裕の笑顔（本当は結構きつかったな）

後列 左から 北原（松岡）、前原、村上（木村）、伊藤  
前列 左から 金子、本園、藤野（西山）、尾儀（私）、原口



三の池に映える稜線 あまりの美しさにしばし見とれてしまいました

### 【追伸】

昨日平成 26 年 9 月 2 日 11:53、御嶽山が突然大噴火した。現地の様子を刻々と TV が伝えている。一夜明けて救助隊が出動した。徐々に実態が明らかになるにつれ被災者の数が増えていく。もし私たちが山頂で写真に収まっていたころ事が起こっていたらと思うと絶句してしまう。はからずも噴火に遭遇してしまった皆さんもそれぞれに喜びを味わっていたに違いない。被災した皆さんのご冥福を心からお祈りしたい。

自然は私たちに恵みをもたらしてくれると同時に、時に非常なしうちを用意している。私たちはそのことをつい忘れてしまう。

御嶽山は活火山だったのだ。そういえば私たちも、山頂神社の横で昼食を取りながら、



私たちが見た噴煙はこんなにもわずかだったのに

噴煙を写真に収めた。そのときは、火山なんだなということを知った程度で、噴火することなど想像だに出来なかった。

悪天候に対してもそうであるが、非常事態に対する備えを怠ってはならないことを再認識したい。

【蛇足ながらついでに一言】

今回の御嶽山登山に関連して事前の南木曾の豪雨災害と事後の御嶽山の噴火に接して、自然災害について改めて考えさせられた。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3年が経過した。また、来年は阪神淡路大震災から20年目の節目の年である。それぞれ、懸命の努力により復興を成し遂げている。あるいは、成そうとしている。

寺田寅彦の「天災と国防」によると「人は3年」、「組織は30年」、「社会は60年」とすると記憶が減衰し、「300年」もすると社会の中でそのことはなかったこととして扱われるようになるそうである。

人は忘れる動物である。だからこそ、苦しみを乗り越えて生きていけるということもある。一方で、忘れてはいけないこともあると思う。災難を乗り越えるためには、自然が教えてくれる教訓を忘れることなく継承し、常に適切な備えを怠らないことが重要である。その教えを忘れてたり、軽んじたりするときっとまた、厳しい教えを授かることになるだろう。

## (2) 昭和50年51年工学部OB同期会の報告

関西支部 昭和51年卒 工 池田 純

去る10月18日、19日昭和50年51年合同WV卒部同期会が開催されましたので、報告します。

### ・参加者

昭和50年卒部：大江田 孝、尾儀 一郎、香月 龍幸、田坂 洋、谷本 智、西村 龍夫、  
福重 義輝、石津 忠隆

昭和51年卒部：岩佐 進吾、大田 博之、古賀 利幸、小林 照明、池田(藤本)純

### ・場所 山口県宇部市常盤公園北キャンプ場。

この会は過去10年ほど前秋吉台にて開催され、その後みなさん定年を迎えられ集まりやすいだろうと、昭和50年卒の石津さんが音頭をとって開かれました。ではレポートです。

まずは新幹線でいまだに駅名がなじめない新山口へ、宇部にはいつもは特急バスを使うのですが一度生まれたところを見ておきたく、山陽小野田市(旧小野田市)から山電バスで、そういえばこのルート50年前子供のころよくつかったルートだなと感慨にふける。さて宇部の町は、昔からあまり変化が少なくてたまたまは学生のころとあまり変わりません。宇部中央のバス停には昔80k耐久徒歩のポスターでお世話になった印刷所がありました。ただとくに廃業して廃墟となっていました。ここから常盤公園にはバスが便利ですがあえて宇部線の電車を使い新川から常盤駅あとは徒歩のコースをとりました。電車は昔と違いJRになってからは乗車券をきちんと回収するようです。駅からはトレーニングで慣れ親しんだ畑の中の道を公園方向にすれ違う女子高生が挨拶をしてくれます。(なかなかしつけがよろしい)

公園まで来ましたが少し時間があるので工学部によることにしました。立派な建屋は増えましたが卒論で勤しんだ実験棟はそのままの形で残っていました。中をのぞくとニス塗りの木箱があっ



たりでたすまいも当時のまま。ただ木はずいぶんと育っておりやはり40年の月を感じます。ここまで来たので奥のサークル棟まで足を延ばす。我がワングルの部室はというと大きな木の看板が掲げられており存在感を出してました。ノックするも残念ながら誰もおらずそのまま公園に戻る。看板でキャンプ場を確認するとここから3km以上ある。仕方がないので歩くことにしたが遊歩道が整備されており見たこともない橋も架けられている。40分も歩くと遊歩道を出てしまいCOCOランドとあり、後で聞くと宿泊施設で屋根のあるところに泊まりたい場合はここを使うとよいとのこと。もと来た道を引き返し駐車場から左へ入ると目的地北キャンプ場があった。先輩方がテントを設営中で、その間宇部短のOG（旧姓阿部さん、谷川さん）とそのお友達が挨拶に来られた。このお友達とは「裏山へ登ろう会」にて昔一緒に方便へ登っており証拠写真も見せられたのですが、まったく記憶がなく大変恐縮。

さて焼き肉ビールにて宴を開き昔話と近況に花が咲く。みなさん還暦を超えられているのだから悠々自適かと思いきやお仕事に趣味に頑張られている。気力体力十分。また仕事にも、それなりに悩みを持たれている方もおられるようでいくつになっても苦勞しているようです。もっとも気力体力十分でなければこういうところには来れません。同期の中にはやはり連絡がどうしても取れない（取らない）人やすでに鬼籍に入られた方もおります。やはり参加できるだけでもありがたいです。

さて日頃の習慣で朝4時に目が覚めてしまいテントを抜け出す。昼も快晴でしたが、夜もとっても天気がよくオリオン座がはっきり見える。昇も6個の星を数えることができました。この空を見ただけでも来たかいがありました。

朝食は香月さんのお気づかいでホットサンドに雑炊ととってもおいしく、つい食べ過ぎてしまう。翌日も快晴。またこのような会を開催しようと約束してテントを撤収解散いたしました。帰りは古賀氏と元来た道をとぼとぼと公園入り口まで歩き新幹線で関西へもどりました。



参加者全員で、右下は三木さん。女性は宇部短OG旧姓左より谷川、阿部さん



宴もたけなわ



人生いろいろありました。先生も大変です

## 8 ワンゲル今昔

### (1) 現役当時の装備の思い出

広島県 平成11年卒 工 堀江淳一

近年の登山装備の進歩には目を見張るものがあります。テント、ザック、靴などの軽量化やウェアや雨具の快適性向上、火器など操作性向上など日々技術革新が進んでいます。一方で道具としての風合いや使い込んでいくことでの味わいが薄れているのではないのでしょうか。今から19年前の1995年(平成7年)4月、私が入部した時代もすでに機能性・軽量化がかなり進んでおり、雨具はゴアテックスが当たり前の時代でした。それでも最近の登山ショップで見る最新装備には驚かされます。機能的でカッコよくて。そして、欲しくなり、つい買ってしまいます……。私の現役時代の装備をいくつかご紹介します。

【テント】 私の時代はすでにダンロップテント、モンベルテントが主流でした。いわゆる家テンは合ワン用となっていました。諸先輩方の汗?が染み込み、独特の香(笑)がしていたのを今でも覚えています。

【火器】 PEAK-1(ホワイトガソリン仕様)(写真はネット画像)

恐らく私の代が合宿でPHOEBUS(プス)を使用していた最後の世代かもしれません。徐々にPEAK-1などに変わり、当時の工学部では燃料タンク部が分離したピークワンデタッチャブルと言われる火器を使用していました。



【靴】 安藤製靴のPULSE#2500(定価39,000円)

CAMP2の店員さんに大学まできていただき27,000円で買ったものです。今でも箱も大切に保管しています。私のワンゲル活動のなかで相棒と呼べるものではないでしょうか。

1年生の錬成前に購入し、「山靴ならし」と称して夜な夜な先輩方の家を周り、ボン酒を一気飲みさせられたのを覚えています。



この靴は今でも現役で山に行く時はこの靴を履いています。使用の度にミンクオイルを塗って手入れし、3年前にソールを張替え、良い風合いを出しています。

【ユニフォーム】 生地は速乾製に優れた素材でした。

本部はエンジ色、工学部は黒色でしたが、私が工学部へ移った年に黒色が製造中止になってしまい、仕方なくカタログの中から一番黒に近いということで青色のユニフォームとなりました。

ズボンは当然ニッカです。今でも実家のタンスに大切に保管してあります。

【ザック】 私の時代は、キスリングは1年生の県内合ワンか1次錬成のときに使用したのみだった記憶があります。すぐに個人ザックを購入しパッキングの練習でした。

【コッフェル（鍋）】 鍋底がぼこぼこだったのを覚えています。先輩曰く、「鍋底をぼこぼこにして表面積を稼ぐことで調理時間を短縮できる」と聞かされました。おかげで食後の「かすり」が大変でした。

【のみ金】 装備ではありませんが工学部 BOX にあったいわゆる私語記です。なぜ「のみ金」と呼ばれていたのか記憶が定かではありません。当時の先輩曰く「のみの金たま」から来ていると言っておられたのを覚えています。今もそのように呼ばれているのでしょうか。

大学を卒業してからはアルプスへは2回行き、最後に行ったのは3年前、同期の高石さんと燕岳～常念岳～蝶ヶ岳の3泊4日へ行ったのが最後です。日頃は中国地方を中心に日帰り登山を楽しんでいます。大山、三瓶山、比婆山、蔵王山（福山市）、鉢ヶ峰・鳴滝山（三原・尾道：瀬戸の島並みが綺麗な山です）など、もっぱら単独で行っています。

アルプスにも行きたいですが、鳳凰山など山口の懐かしい山々にいつかまた登ってみたいです。

## 9 現役活動報告

### (1) 夏合宿結果報告

#### (ア) 縦走(2014.8.23~8.27)

農学部 2年 浅川佑二

今回、夏合宿で責任者を務めさせていただきました、農学部・生物資源環境科学科 2年の浅川佑二です。

#### ・山行概要

##### ◆AP 8月23日

湯田温泉駅始発→京都駅着→夜行バス京都発

##### ◆一日目 8月24日

夜行バスで甲府駅到着後、本来であれば甲府駅から登山バスで広河原移動する予定でしたが、土砂崩れによって通行できなかったため、電車とバスを利用し奈良田まで行き、そこからの登山バスにより広河原まで移動しました。そして白根御池小屋へと移動し、テント泊を行いました。

##### ◆二日目 8月25日

白根御池小屋を出発し、北岳山荘でテント泊を行いました。

##### ◆三日目 8月26日

数日の悪天候により塩見岳へと行くルートは危険と判断したため、ルートを変更し農鳥小屋へと移動しました。

##### ◆四日目(最終日) 8月27日

農鳥小屋を出発し、奈良田へと到着後解散しました。

#### ◆総評

今回の夏合宿は、日本にかかっていた前線の影響もあり、悪天候により当初の計画よりも大きく変更することとなりました。また、今回は1年生が10人中7人と多く、苦労もありましたが、無事やりきることが出来ました。1年生には縦走がどのようなものか理解してもらえたように思います。今回の経験を次に活かせるようにしたいと思います。

### (イ) 北アルプス〈ピストン〉(2014.8.25~8.30)

経済学部 2年 松尾花菜

この度、夏合宿でC・D-Partyの責任者兼C-PartyのSLを務めさせていただきました経済学部、経済法学科、2年の松尾花菜です。今回、私たちは8月25日から8月30日まで北アルプスへ行きました。簡単にではありますが、夏合宿の結果報告をさせていただきます。

#### ■1日目

富山駅から折立までバスで向かい、その後、歩いて太郎平キャンプ場を目指しました。悪天候で足元が悪かったため、予定より時間がかかってしまいましたが無事にベースキャンプ地に着くことができました。

#### ■2日目

悪天候のため、太郎平キャンプ場で沈。

### ■ 3日目

3日目は薬師岳に登りました。登っている最中はずっと曇り空で、あまり景色を楽しむことができませんでしたが、頂上では時折日差しが差し、雄大な景色を堪能することができました。

### ■ 4日目

4日目は北ノ俣岳、赤木岳を経由し、黒部五郎岳に登りました。黒部五郎岳頂上までの急坂には大変苦労しましたが、1人もリタイアすることなく登りきることができました。この日は晴天に恵まれ、頂上から立山連峰を一望することができました。

### ■ 5日目

キャンプ場から折立まで下り、折立からバスを利用して富山駅まで帰りました。富山駅到着をもって合宿終了とし、各自解散しました。

### ■ 総括

今年のピストンパーティーは、コース全長が40kmを超えるという例年よりも長い行程でした。厳しい行程にも関わらず、全員が最後までやりきったというのは大きな収穫だったと思います。合宿終了後のメンバーの充実した表情がとても印象的でした。また、1年生が、初めての合宿で、雨の日も晴れの日も両方経験できたのは大変良かったと思っています。この経験を活かして、これからも頑張してほしいと思います。

## (2) 第51回中国・四国合同ワンデリングについての報告

理学部 3年 岡本佳菜

私は山口大学理学部3年の岡本佳菜と申します。部活では渉外を務めており、今回の中四合ワンでは副実長を務めました。部活を代表して中四合ワンの報告をさせていただきます。

今年の第51回中国・四国合同ワンデリングは山口県が主管校でした。広島県の廿日市市にある、もみの木森林公園で行い約120人の参加者と例年のごとく大変盛り上がることができました。

主管校となったからには参加者の皆様に楽しんでもらえるように最善を尽くさなければなりません。

今年は消費税が5%から8%に引き上げられ大きなお金を動かす際に非常に苦労しました。また、日程として10月11日～13日を予定していたのですが一週間ほど前に10月13日に台風が中四国を直撃するということが分かりました。誰一人として台風が来た場合の対策などを考えておらず役員皆どうしようかと悩み、中止にしようかという案も出たのですが1泊2日と短縮した形で行うことに決定しました。

主管校と決まってからはずっと2泊3日の予定でスケジュールを立ててきたわけですが残念ながらほとんどが意味のないものになってしまいました。あの当時は非常に悔しい思いで一杯でしたが少し経った今では行動が天候に左右されてしまうワンダーフォーゲルらしさが顕著に感じられた年だったなと思います。

キャンプファイヤーや飲み会では近年卒業していかれた各大学のOB・OGさんがちらほらと参加して下さり参加した現役部員も喜んでいました。

参加していただいたみなさんのほとんどが山口大学のスタンプである山口ボンボンと一緒にあって踊ってくれて、とても一体感の生まれた良いキャンプファイヤーになりました。

卒業されてもなお顔をを出してくださる先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

中四合ワンが終わって各大学の皆さんが短くなってしまったけど楽しかったよと言ってくれて、とても嬉しかったです。

今回主管校として第 51 回目の中国・四国合同ワンデリングの準備をする中で工学部の学生、県立大学の学生と共に苦楽を共有して一層仲良くなることができましたと思います。

部活動では普段の学校生活では経験できないようなことを経験することができ、自分を成長させてくれます。

準備の過程では本当に大変なこともありましたが無事に第 51 回の中四合ワンを終えることができ安心して次の主管校である愛媛大学さんにバトンを渡すことができます。

今まで歴代の先輩方がつなげてきて下さったこのバトンを落とすことなく、これからも同じ趣味を持つ仲間の触れ合うことのできる 1 つの機会としてこの中国・四国合同ワンデリングが続いていくことを心から願っております。

誠に簡単ではございますが中四国合同ワンデリングの報告とさせていただきます。

### (3) 春合宿案概要

農学部 2 年 河村莉佳

この度、春合宿で責任者を務めさせていただきます農学部、生物資源環境科学科、2 年の河村莉佳です。

今回の春合宿で私たちは鹿児島県の屋久島へ行く計画を立てました。簡単ではありますが、今回の合宿日程の報告をさせていただきます。合宿期間は予備日を入れて 3 月 5 日から 3 月 11 日を予定しています。

#### ■1 日目

1 日目は番屋峯キャンプ場を出発し、縄文杉を目指します。縄文杉へ至るルートは完全に整備されているため、危険箇所はありません。縄文杉に着いたらもと来た道に戻り、番屋峯キャンプ場へ戻ります。

#### ■2 日目

2 日目は屋久島の南部へ向かいます。到着後は千尋の滝やトローキの滝、キャノピーウォークをする予定です。その後屋久島ユースホステルキャンプ場へ向かい、3 日目はこのキャンプ場でテントを張ります。

#### ■3 日目

3 日目は屋久島フルーツガーデンへ向かい、園内を見学します。その後オーシャンビューキャンプ場を目指し、3 日目はこのキャンプ場でテントを張ります。

#### ■4 日目

4 日目は宮之浦でリバーカヤックをする予定です。カヤック終了後宮之浦港へ向かい、ここを合宿終了地点として各自解散になります。

山口では体験することの出来ない屋久島の豊かな自然を楽しみ、怪我なく充実した春合宿にしたいと思います。

以上、簡単ではありますが、春合宿の予定報告をさせていただきます。

## 10 編集後記

経済学部 4年 栗林道

今年もすっかり寒くなり、もう年も終わりに近づいているなと実感するようになりました。3年前のこの頃は山口で初めての冬を過ごし、盆地特有の寒さに驚いたことを思い出します。早いもので、山口で過ごす冬も4度目になります。自分も4年生ということで、最近卒業論文の追い込みをしているところです。

今年は1年にわたり鳳翔会の事務局長を務めさせていただきました。会長・副会長には何度も助けていただき、本当に頭の下がる思いです。また各支部の方々にもOB通信への寄稿など協力していただき、大変ありがたかったです。

事務局長としてやってきた中で、学生の間では経験しようとしてもできないようなことを経験でき、大変貴重な1年間を過ごさせていただきました。この経験はきっと今後生きてくる、生かしていかなければいけないことだと感じています。1年間本当にありがとうございました。

最後になりますが、今回OB通信を無事に発行できたのは、原稿を寄稿してくださった各支部の方々や本部役員といった鳳翔会員の皆様のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。